
距離

ekaki

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

距離

【Nコード】

N1777B

【作者名】

ekaki

【あらすじ】

恋人同士のアイツと俺。俺達の距離は、近いのか、遠いのか。正解なのか、不正解なのか。

（前書き）

七本目にして初めてホラー以外の作品を書いてみました。
根暗の自分が書く恋愛物なので、かなり酷い出来だと思われそうですが、
読んで頂ければ嬉しいです。

「・・・ね」

「・・・どした」

「寒いわね」

「ああ、寒いな」

「・・・」

「・・・」

いつもこうだ。

すぐに会話が途切れてしまう。

・・・付き合い始めてから、約一ヶ月。

友達でいた頃より、付き合い始めた今の方が会話が続かないなんて笑ってしまう。

あの頃・・・友達だった頃は、普通に喋れていた。

他愛もない会話や、時々されたちよつと真面目な質問や相談が、とても楽しかった。

・・・でも、今はその楽しさが無い。

何処で喋っても、何の話題でも。

続かない。

すぐに途切れてしまう。

勿論、俺は彼女が・・・愛海が好きだ。

愛海が嬉しそうだったら俺も嬉しいし、愛海が悲しそうだったら俺も悲しい。

・・・でも、それは俺達が友達だった頃も同じだった。

・・・思うに、俺達は間違えてしまったのだ。

お互いの距離を。

俺達は、恋人未満友達以上が、・・・それが、一番の距離だったのだ。

・・・これは俺の言い訳なのかも知れない。

俺の勝手な言い分なのかも知れない。

でも、愛海。

俺は、お前とは一番いい関係で・・・お互いにとって一番の距離でいたいんだ。

「・・・愛海。」

「・・・亮？どうしたの、そんなにあらたまって・・・。」

「戻らないか。」

「・・・え？」

「俺達、友達に戻らないか？」

「・・・それ、別れよう、って事？」

「違うよ。」

「・・・じゃあ何よ。」

「お前、気付いてるんじゃないのか？」

「・・・何に。」

「俺達の関係の間違いに。」

「・・・。」

「俺達は、友達で・・・親友でいるべきだったんだよ。何でも話せる親友でさ。それが、それが俺達にとって一番の・・・」

「ぶっ」

「・・・愛海、ここは笑うシーンじゃない気がするんだが。」

「・・・ふふふ、流石亮ね。」

「・・・何が？」

「私達関係をよく分かってるわ、って事よ。」

「愛海、お前・・・気付いてたな？」

「当たり前。て言うか、私達は昔からそんな感じだったでしょ。」

「・・・ああ、そうだったな。」

「て言うか、付き合い始めた瞬間から、こんな感じになると思ってたのよね、私。」

「・・・じゃああの時にぶっくれよ。俺、今ものすごいビクビク

してたんだぜ？もしかしたらお前が泣くかも、ってさ。」

「いや、泣く真似をするつもりだったんだけどね、あまりにも予想通りに行くから、笑いを堪えきれなくなっちゃって。」

「・・・お前、面白いけどやっぱ性格悪いわ。」

「あんたも面白かったわよ。予想通りで。」

「・・・悪女。」

「計算高い、と言いなさいよ。」

ああ、これだ。

「所で亮、そろそろ駅つくわよ。降りる準備しなさいよ。」

こんな風に冗談を言い合える仲。

「準備？そんなもんしなくても降りられる。」

これが俺達の一歩の距離。

「あらそうなの？じゃあ貴方、鞆はどうしたの？」

恋人になるのが正解じゃない

「あ、あれ？確かに上に置いておいたんだけどな？」

俺達の本当の正解。

「あっちの車両に置きっぱなしよ。貴方、こっちに移動してくる時に持ってこなかったでしょ？」

他の何よりも適している

「あ！お、お前それ、さっき言えよ！ちよ、取ってくる！待ってるよな！」

俺達の最高の関係。

「待たないわよ。先降りるわ。じゃね。」

これから先

「あああゝ！ちよちよつと待てよ！愛海！」

俺達の関係が変わる事はないだろう。

「無駄口叩いてる前にさっさと取りに行きなさいよ。盗まれるわよ。」

これが俺達の最高の関係で

「あ！よし、すぐに戻ってくる！」

俺達にとって一番の・・・

「全く、世話が焼ける・・・」

最高の距離なのだから。

（後書き）

えゝ．．．、どうでしたでしょうか。

前書きにもあったように、初めてホラー以外のジャンル（しかもコメディ）の次に自分に縁の無さそうな恋愛）に手を出してみました。基本ホラーな自分が書いた物なので、かなゝり酷い出来だったと思います。感想、誤字脱字の報告などを頂けたら、嬉しく思います。今後ともどうぞよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1777b/>

距離

2010年12月14日15時57分発行